


浜 私 幼

横浜市幼稚園協会 協会報 No271

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行
〒221-0055
横浜市神奈川区大野町 1-25
横浜ポートサイドプレイス アネックス 5F
電話 045 (534) 8708
<http://www.kids-yokohama.or.jp>
編集 横浜市幼稚園協会広報部
発行者 木元 茂
印刷所 株式会社横濱大氣堂

第 25 回父母セミナー開催

平成 29 年 9 月 12 日 (火) 会場／横浜西公会堂

講師：高野 優 先生 
講演テーマ：
マンガを描きながら子育てトーク
ー育つ喜び・育てる楽しさー

横浜市幼稚園協会と横浜市幼稚園父母の会連合会の共催の保護者を対象とした父母セミナーが開催されました。

今回は、ご自身の妊娠を機に育児マンガをスタートしてから 20 年近く可愛いイラストで親御さん達を応援してきた、育児漫画家・イラストレーターの高野優さんをお迎えし、近い将来に来る思春期の乗り越え方や、また親子と周囲の方達との関わり方を、3 姉妹の育児経験やご自身の生い立ちを振り返りながら語っていただきました。

軽快なトークと同時にその場で描くかわいいイラスト満載の講演に、500 名に及んだ参加者は引き込まれ、笑いと涙の 1 時間を過ごしました。心に残る今回の講演会を要約してご紹介いたします。



© 刑部友康撮影

経 歴

北海道生まれ。育児漫画家・絵本作家であり、大 1・高 2・中 1 の三姉妹の母。
マンガを描きながら話をする独特のスタイルで、育児に関する講演活動を行い、NHK 教育テレビ「土よう親時間」(2008～09 年)、「となりの子育て」(2009～11 年)の司会を務めた。「ハートネットテレビ」(2013 年)の虐待特集「完璧な子育てなんてない」に出演。2015 年第 8 回ベストマザー賞(文芸部門)を受賞。





長女の反抗期



長女の子育てをしている時に愚痴を聞いて貰っていたのは、私の娘より年上の子どもさんをお持ちのママ友でした。ギャングエイジと言われる小学校4年の時期のムスメの言葉はほぼ4つでできていました。「うざい」「キモイ」「無理」「やばい」

そんな娘のことを「うちのムスメってこんななんですよッ!! ひどい言葉使いでしょ?」とそのママ友に話すと、「うわーそれはひどいね」と言葉がかえって来るかと思いきや答えはこうでした。「うん!かわいいよねー」びっくりした私に追い打ちをかけるもう一言「高校生になると、もっとバージョンアップするんだから。そこに、『メシ!』『カネ』が追加されるんだからすごいでしょ!」と・・・そうなのです。さらにひどくなりました。大きな音をたてて家のドアを開け、階段を上り部屋の扉が壊れるほどの乱暴なふるまい。そんな毎日に困り果てていたある日、お仕事で一緒した心理学者で臨床心理士の田村節子先生に「私自身毎日その音を聞くと子どもに責められているように感じてしまうのです。これも自己主張の現れなのでしょうか?」とお話してみたら、帰ってきた答えが以外なものでした。

「子どもが大きな音を立てる思春期の場合、心理用語ではそれを『ダンス』と呼び音の一つ一つに意味があるのです。それは『私を見て!かまって!関心をもって』まるでそれは2歳児のイヤイヤと変わらないサインなのですよ」と。その目からウロコの言葉を聞いてからは少しずつ私自身が子どもに対する向き合い方を変えていけたと思います。

そしてその後の長女に1つの出来事がありました。ある日そっと娘の部屋をのぞくと、机に突っ伏しているのです。これはチャンスと娘に声をかけてみました。「しんどいよね。友達や部活のことも色々あるのに、いつもお姉ちゃんとして妹の世話をたくさんしてくれるよね。本当にあなたはいつも頑張っているね。」と。すると、長女の顔がみるみるうちに変わっていくではありませんか。涙目になり、それはとてもキラキラとした表情になりました。そんな風に私を温かく見ていてくれたのと言わんばかりに。まあそれも3.8秒ではありましたが・・・大切な瞬間でもありました。



姉妹を比べず、 それぞれの一番好きを見つける



思春期の比較をすると、長女は一言で言うと、動一わかりやすい音や態度でしたが、一方の次女は、静一むっつりとしたイヤな顔をするんです。次女はじめじめした思春期をかわいいなと思えることが出来たのも長女の思春期を経験したからでもあり、また彼女の生まれてからの大変な時期を経験したからでもありました。

次女が生まれた時は3ヶ月検診で首はすわらず、再検診が数ヶ月連続で続き、最初はそれぞれの発育は違って当たり前と思っていたのですが、1歳児検診にもなりますと、周りとの差が大きすぎてのんびり構えていた私でも焦らずにはいられませんでした。

1歳児検診での次女が出来たことは、やっと少しだけずりばいする程度だったのです。先生からの、手首足首の筋肉がほとんどないので療育に行くようにとのアドバイスにより、長女を急きよ家から30分の場所にある保育園に預け、次女と50分の場所にある療育センターへ通うことになりました。毎日のリハビリにぼろぼろと涙を流す我が子を見て私も泣き出し、先生からしかられることもありました。

半年過ぎても始めたばかりの頃と何も進歩が見えないことに不安と疲れがピークになる中、私の周りのママ友がこんな風に声をかけてくれました。「子ども達をうちに連れてきて一緒に遊ばせてあげるから、少しは寝たら?」「子ども達をプールに連れて行ってあげるから、少しは寝たら?」みんなとても私を心配してくださり、温かい言葉をかけてくれるのに、当時の私にはその言葉に甘えることが出来ませんでした。もし昔の自分に言えるならば「周りにもっと甘えていいんだよ」の一言でしょう。そして私の頭には先生から言われた言葉がいつもありました。

「娘さんは将来歩けないかもしれない。装具や車いすが必要かもしれない。でも、大切なのは娘さんの価値は変わらないのですよ。」

わかってはいます。わかってはいても、この出口のないトンネルのような子育てにぼろぼろと涙がこぼれていました。子どもの前で最低だと思いつつも止めることの出来ない感情。すると、動くのも大変な娘が私のもとに這いずってきて満面の笑みで私の膝と手をトントンと軽くたたいたのです。なんの意味もない出来事なのかもしれませんが、私にとってそれがリセットボタンを押されたように感じました。子どもをより光り輝かせるためには、私が今できることをしよう。そう思えた瞬間でした。その後、次女が初めて立った時も、当たり前なんてどこにも

ない。子どもの成長全てが奇跡なのだと感じていました。

三女は、保育園の卒園証書に先生から「足腰の強い」と肩書きを頂くようなボーイッシュな娘でした。その肩書き通りの生き方で、小学校入学から競合サッカークラブに所属し、ハードな練習をこなす毎日でした。

娘は、男子チームでの日々の練習で段々と力の差が出てきてスタメンから落ち、足も速くない・・・厳しい現実と向かい合っていました。親としての私は、たかが習い事なのだから別なチームへ行く選択もあると、彼女が苦しいとサインを出した時はそれを見逃さずにもう一つの選択を提案しようと考えていました。

そんなある日、お風呂場から三女の泣き声が。これが娘のサインだと思い、そっとお風呂場に近づくと、スパイクを洗いながら娘がつぶやいていました。「私・・・サッカーが・・・好きすぎる!」

私は三女を育ててみて、自己肯定感を強くするには、何でもよいから子どもの好きなことを1つでも見つけてあげることが良いと思いました。そうすると、周りを責めない、芯がぶれない、周りに何を言われても倒れない自信がおのずと出てくるものです。上の二人の時には気付くことができませんでした。

親としてのゴールは子どもの自立で、それまでは、ばたばたとする日々に「もしも1時間の自由な時間があったらカフェで熱いコーヒー飲みたいな」や「吹き替えでない字幕の洋画を映画館でみてみたいな」などと妄想したりしていましたが、実際子どもが自立してからわかることがありました。1人でのコーヒーは楽しい? 1人での映画は楽しい? もちろん楽しい時もありますが、決してそれは宝物の時間ではありませんでした。

そして、自分が一番かっこよかったのは坂道を前後のかごに子どもを乗せ、抱っこひもで三女を抱えて必死に自転車を漕いでいたあの頃の自分だったと今なら言えます。



家族と地域社会の中で 子どもの成長を見守る大切さ



私には姉がおりまして、それはそれは何でもできる姉でしたので、親の期待と愛情が強く注がれ、一方の私は毎日のように怒鳴られ馬鹿にされ、私にとって家庭は、色で言うならまるで全てがねずみ色で、帰りたくない場所でもありました。

居場所がない家から飛びだして、よく私は夜間図書館へも行きました。小さな図書館の読める本は全て読んでしまうと、司書の方が私が楽しめるアイデアをいつも用意してくださいました。友人や友人家族・地域の方々の温かい見守りのおかげで私の世界は鮮やかなバラ色に染められていました。

姉が中学に上がってからは、運動会が重なり、両親は運動もぱっとしない私のほうではなく、躊躇なく毎年姉の応援に行きました。お弁当も作ってもらえなかった私は、買ったパンを黙々と食べていました。4年生になった時にも相変わらず親は運動会には来ませんでした。今までは数名いた親なしで食べる子ども達もいなくなり、私一人が体育館で食事していると、1年生の時に担任だった先生が入ってきて「うちのかみさんがおっちょこちょいで弁当2つ作っちゃったからおまえ1つ食べてくれないかなあ」と私に言いました。私はなにも疑わずにただラッキーと言い、先生とお弁当をともに食べました。次の年も同じことが起こりました。そして次の年も。私は6年生になっていましたから、さすがにこれは偶然ではないとわかりました。その時先生は、別の学校へ異動されていたので、来賓の腕章もつけて、急いで来てくださったのかハアハアと息も荒く入ってきたのです。

そして私が卒業する時に先生はこう言ってくださいました。「おまえはものすごく良い子だからね。そのまま変わらなくていいんだよ。おまえの良さに気づかない親はアホだ。なにかあったら電話をしてきたらいいよ」と電話番号を書いた紙をくださいました。

このように、私の周りにはたくさんの優しさがあふれていました。だからこそ、私にはねずみ色の家ではない温かい居場所がある。と思えました。それでも両親の態度を見てしまうと「私をもっと〜だったら」と考えてしまいましたが、先生は初めてそのままでもいいとはっきり言ってくださったのです。そして私も大きくなったら自分と出会った人達を大切にしたいと思うようになりました。

そして今日皆さんに私が言いたいことは、皆さんの周りにも以前の私のようにうずくまっている気になる子どもがいるかもしれないということです。そ

のようにうずくまる子どもはきっと高く飛ぶチャンスを待っているのです。噂にするのは簡単です。でも、「おはよう」「今日は寒いね」どんな言葉でも良いのです。子どもに声をかけることが、その子どもにとってはとても大きなチャンスにもなれるのです。

講演をしていると、質問やアンケートに必ずと言っていいほど「子どもをしかりすぎる」「きついことを言うてしまう」などの多数の声を拝見いたします。もちろん親も人ですからイライラもしますし、怒りすぎることもあります。

でもそんな感情の渦の中でも、少しでも思い出せれば良いと私は思うのです。子どもにとって、今からかけるその言葉は彼らにとって10年20年後に思い出すと震えてしまうほど恐ろしく彼らを萎縮させる言葉になるのではないかと。

温かい言葉を沢山知っている子どもは、この先困難にぶつかった時、必ず乗り越えることが出来ます。ですから、どうか子ども達に温かい言葉を沢山かけてあげてください。



第2回教員研修会・防災危機管理研修会 開催

平成 29 年 10 月 18 日(水)に市内幼稚園教職員の指導力の向上をめざし、研修会が行われました。

第1 分科会

テーマ：
スクールカウンセラーからみた
子どもの育ち、
あんなことこんなこと
(学校でのいじめ、不登校など)

講師：臨床心理士 國分 牧子 先生

幼稚園の時には何も問題はなかったのに、学校に行けなくなったりしいというような話を聞くことがあります。乳幼児期の過ごし方が思春期にどう影響するのか、その時期に何を育てておくことが大事なのかを、いじめや不登校などの事例を通してお話しいただきました。発達障害についての事例もそこに含めて紹介くださり、私たちの日々抱える問題の、解決に向けてのヒントをいただけたと思います。國分先生が、カウンセラーとして子どもたちや保護者の方たちと丁寧に向き合う姿勢がよく伝わってくる、愛情あふれるお話でした。

(上白根幼稚園 岩崎 泉)

第2 分科会

テーマ：
「子どもの育ちと造形活動」

講師：横浜市民ギャラリー主席エドゥケーター
三ツ山 一志 先生

表現活動には自分で見るという<意識>と自分でするという<意志>を持つことが重要です。見ているのは自分であることに気付くと、感じていることを言葉にしく思う>事が始まります。「手」は<意志>で動き、したいことに合わせて手は動かし方を変えるのです。幼児の造形活動は、豊かな心と自分の思いを表現する事が出来る「手」を育てることに目的があり、描いたり作ったりすることは、そのための手段であり目的ではありません。子どもが大人になる為に必要な内的な能力を育成するひとつの物差しともいえるのです。

(聖母幼稚園 櫻井 つた江)

第3 分科会

ドキュメント映画『みんなの学校』
～すべての子どもに
居場所がある学校づくりとは～

講師：玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授
若月 芳浩 先生

大阪市住吉区にある公立の大空小学校が目指すのは「不登校ゼロ」。特別支援の対象となる子どもも皆同じ教室で学びます。教職員だけでなく、地域の住民や学生のボランティア、保護者らの支援も積極的に受け入れた「地域に開かれた学校」としての体制を作っています。そんな学校での日々育っていく子どもたちの奇跡の瞬間、ともに歩む教職員や保護者の苦悩、戸惑い、喜びをありのままに映し出しているドキュメント映画から、そもそも学びとは何なのか。あるべき教育の姿とは。子どもたちとどう向き合い導いていくのか。「教育は人なり」ということを改めて学びました。

(上飯田幼稚園 内藤 啓充)

防犯 危機管理 研修会

テーマ：保育救命
～保育現場での
安心安全を考える～

保育応急救護協会の代表 遠藤 登 先生

講師の遠藤登先生は保育士・園長を経て、病児保育事業やクリニックのたちあげにたずさわって保育の救命救急のスペシャリストとして活躍されています。保育現場での擦り傷、切り傷、火傷、打撲等の応急手当のポイントは、今後に役立つ内容でした。また、鼻血が出た時、骨折・脱臼が疑われる時の対処方法を、参加者が実技を交えて学びました。防げない事故もありますが、事故や怪我は起きたらなるべく小さく、悪化させず、後遺症を残さないようにしなければなりません。安心安全の保育環境を作るために、大勢の先生たちが役立つ知識を身に付けました。

(竹山南幼稚園 加瀬 容子)

子育て教育
相談室より

子育て、こんなときどうする？

横浜市幼稚園協会 子育て教育相談室相談員 飯塚 史

早いもので 2017 年も終わりに近づいてきました。皆様にとってどのような 1 年だったでしょうか。今回は子どもの嘘について考えてみました。

子どもが嘘をついたとき、皆様はどのように感じるでしょうか？筆者が子どもの頃は、「嘘つきは泥棒の始まり」などと言われました（読者の皆様にはピンと来ないかもしれませんが…）。そのようなことを聞いたことがなくても、嘘は悪いことと考えていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。我が子が嘘をついたら、あるいは頻繁に嘘をつくようになったら、それは誰でも心配になると思います。

では、子どもはなぜ嘘をつくののでしょうか。

一口に嘘と言ってもいろいろなタイプがあります。

- 1) 空想や願望など
- 2) 叱られたくないなど自分を守るため
- 3) 周囲の関心を引きたいとき

などの状況があると思います。

子どもは 2 歳半頃から嘘をつくようになるそうです。これより幼い頃は、嘘をついているという意識はないことが殆どです。

1) のように空想や願望と現実の境目があいまいなことは、幼児期にはよくあることです。現実と違うからと一つ一つ訂正するのではなく、じっくり聞いてあげてください。近い将来、素敵なお話を作ったり書いたりする子になるかもしれません。ある程度成長し、空想と現実の区別がつくようになれば、自然になくなるでしょう。どうしても気になるときは「そうなのいいね」「お母さんも〇〇だったら嬉しいな」など、話の内容を否定せずに、さりげなく言い換えてあげてください。

3 歳頃になると自分の言っていることが現実とは異なっていることや、嘘をつく目的を少しずつ意識できるようになります。意識的につく嘘、すなわち叱られることが予想出来ているというのは、先を見通せる力が育っていることであり、大人の価値基準が理解できていることでもあり、発達面からは多面的な力が育っているともいえます。そうはいつでも嘘をつくことは喜べないかもしれませんが…。

2) のように友だちと喧嘩したなど自分に起きたことを上手く説明できないときは、結果として事実とは違う話をしてしまったり、つい嘘をついて叱られることから逃れようとし、ときには、親を心配させたくなかったり、負けを認めたくないなどプライドがあって嘘をついてしまうこともあるかもしれません。まずはお子さんの話をよく聞き、事実を整理してあげましょう。その上でそのときのお子さんの気持ちをお母さんが言葉で伝えてあげることで、

お子さんは理解してもらったと安心することが出来ます。何がいけなかったかよりも、次はどうしたら上手くいくかを一緒に考えたり、伝えるようにしましょう。

3) のときは、お子さんが寂しいときです。例えば、弟や妹に手がかかったり仕事が忙しかったり、つい我慢させたり自分でさせてしまっていることはないでしょうか。ときにはその子を優先してかかわったり、寝る前に対一の時間を作るなどその子だけの安心して過ごせる時間をとってみてください。

嘘は子どもからの SOS です。嘘をつくのは、必ずそうせざるを得ない子ども側の事情があります。叱られてばかりの子どもは、嘘をつくことが多くなるかもしれません。大人だって怒られてばかりは嫌ではないですか？それも自分を守るためであって、止むを得ない事情です。気になることは多いかもしれませんが、本当に叱るべきことと、今は目をつぶっても良いことを整理しましょう。また大人の事情でイライラしてその怒りが子どもに向きやすいときも、子どもの嘘が増えるかもしれません。その場合は大人も苦しいし、お子さんも苦しいですよ。是非、誰かに相談してください。周囲に相談できそうな人がいなければ、子育て教育相談室にお電話ください。一緒にどうしたらよいかを考えてみませんか？

最後になりましたが、先の三つ以外に White Lie …（白い嘘）があります。日本語でいう「嘘も方便」です。相手のために思いつく嘘は円滑な人間関係には必要で、むしろ身につけるべき力の一つと言えるかもしれませんね。

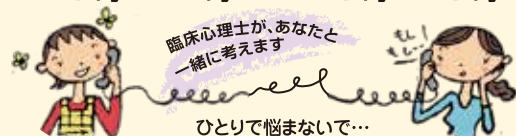
子育て教育相談室

【相談日】

毎週火曜日・金曜日（年末年始、祝祭日を除く）

【受付時間】

10時～12時 13時～15時



相談専用ダイヤル

045-534-8837

公益社団法人横浜市幼稚園協会 ☎ 045-534-8708

<http://www.kids-yokohama.or.jp>

お子様の歯の成長について

わかば歯科医院 院長 杉山 穰

おやつと虫歯



子どもたちは、みんなおやつが大好きです。大人は、どのようにおやつを与えればよいのか悩むところだと思います。乳幼児期は消化器官がまだ小さく発達中なので、量を食べることが出来ません。成長するためには栄養をたくさん取る必要がありますので、そこでおやつの存在が大切になってきます。おやつで思い浮かぶのが甘いもの特にチョコレートやスナック菓子などで、これらは食べやすくてとても好まれるものであります。甘いものは虫歯になりがちと思う人が大多数だと思われまます。確かに他に比べると、確率的には虫歯になりやすいかも知れませんが、実際にはそれほどでもないです。しかしながら甘いものを控えたからと言って虫歯が少なくなれば良いのですが、実際にはそうとも言えません。どんなものを食べても、食後、そのままでは虫歯は出来てしまいます。要するに食後は口の中を清潔に保つことがポイントになります。方法としては、やはり歯磨きすることが大切で、出来ないときはお茶や水を補給して汚れを少しでも取り除くことをお勧め致します。特にお茶にはカテキン（抗菌作用）やフッ素が含まれているので虫歯の予防には欠かせない飲み物です。昔の人の習慣や知恵は現代においても理にかなっていて、これを利用しない手はないと思います。その他は、時間を決めておやつを与えることが良いでしょう。

虫歯を作らないためには、やはり基本的には歯磨きすることです。しかしながら、ほとんどの子どもは歯磨きを嫌がります。どうしたら好きになるのか、これは大変難しい問題で、我々の業界でも永遠の課題でもあります。お子様の性格も多種多様なのでこれをしたら良いというのは難しいですが、どうすれば興味を持ってもらえるのか、好きになるのかを見つけてあげること、そして習慣にして頂くことが重要なのです。どんなやり方でも良いですが、例えば大人の歯磨き姿を見てもらいこれを真似してもらい出来たらほめてあげる、これを繰り返して習慣にできればうれしいですね。



よく噛んで

最近では食べるものも柔らかく美味しいものが多く、あまり噛まなくても呑み込めるものが多く、あごが小さくなっている傾向も見受けられます。あごが小さく、発達していなければ、歯並びにも影響が出てきますし、それによりかみ合わせに影響が出れば消化にも影響が出てきます。お子様のあごは良く

噛んで食べることで成長発達していきます。そのためには何度も噛まないで呑み込めないメニューを用意して頂くことがポイントです。また、食事の時大人も噛む回数を増やして頂くことで、これを真似してもらおうと良いと思います。お子様にさせるだけでなく大人も一緒にあごに良い食習慣を身につけたいですね。体の成長に関して噛むことは、あごや周りの筋肉の発達にも影響を与えるので、歯並びにも関係してきます。また、噛むことは脳への刺激にもなるので記憶力や集中力の向上にも役に立つでしょう。1～2歳児のお子様は、まだ奥歯が生えていないか、生える途中なのであまり噛むことが出来ません。ほとんどが丸呑みしています。口の中の唾液の量は多いので呑み込みに関して心配はありませんが、ご心配な場合は量を少なくして、口に運ぶ回数を多くしてあげると良いでしょう。成長とともにだんだん噛めるようになりますから、食事の時間はある程度余裕をもって早食いさせないように、大人にも良く噛んでもらいそれを真似してもらおうと良いでしょう。

歯のかみ合わせのお話になりますが、特に受け口（反対咬合）について説明します。受け口は二通りありまして、あご自身が前方に出た状態と、歯のみが前方に出た状態に分けられます。幼児期に受け口であっても永久歯の生え変わりと同時に正規のかみ合わせになることもあります。遺伝的な要素も大きいので、ご心配な方は、かかりつけの歯科医にご相談されると良いでしょう。



フッ素

フッ素については、初期の虫歯にはとても有効なので、塗らないより塗ったほうが良いと思います。初期虫歯の段階で、歯の石灰化を助けてくれます。フッ素を歯の表面に取り込んでいただくと、エナメル質のハイドロキシアパタイトと結びついて、フルオロアパタイトになり硬い組織を作ってくれます。これにより歯の成分、カルシウムやリンが溶け出しにくくなり、強い歯にしてくれるのです。乳歯は、小学校6年生ですべて抜けてしましますが、継続して永久歯に塗っていくことで虫歯の予防を促してくれます。歯科医院で塗布するフッ素は約3か月ごとに塗ることが多いです。いつまでというのはありませんが、最後に出てくる第二大臼歯、この歯は、中学2年生くらいで生えてきますので、それまでは継続して塗って頂きたいです。

コラム 幼年に向かって成熟する

寺尾第二幼稚園
亀井 観一郎

小説家、画家などに「処女作に向かって成熟する」という言葉があって、文学や芸術の世界では多くの場合その人の資質のいくつかの要素が出揃って、その後開花するので、「処女作」に向かって深まっていくのは必然かもしれません。これと関連して思うのが、「幼年に向かって成熟する」という考え方で、人間は老年期に再び、その人の赤裸の姿、存在そのものの本来の姿に戻っていくことを表して、「未来に向かい追憶する」(キルケゴール)ことに似ています。

日本の民芸運動を主導し、確立した柳宗悦氏は、中国の陶器の歴史上、最も美しいと言われる宋時代の陶器には見事な「絵付」がしてあって、それは「10歳前後の子どもの筆に依る」のだと言っています。その美は「巧」、「拙」、才能の有る無しを越えた、「拙」即ち「美の浄土」から来るものとしています。幼稚園の子どもを見てみると、時々ハッとするような言葉や行為に触れて、「これはどう考えても3歳の子どもの考えることではない。殆ど大人みたいだ」と思うことがあります。

近代の文明は合理性とその美しさを求めてきました。一方で子どもの世界は、その対極にあり、その原始性、多元的な時間こそ、疲弊した現代人を甦生させるエネルギーを持つことが指摘されています。それは古代からある「遊びに没頭する人間」の素晴らしさです。文字も読まず、言葉のもつキマリや拘束力から自由な幼児は、たとえ言葉でコミュニケーションできなくとも、身振りや仕草で会話をして遊びま

す。現代はあまりにも「コミュニケーション」や「きずな」や「他者の理解」などが求められ過ぎるのではないかと、幼い子の自由さを見て思わざるを得ません。彼等の遊びでは突然、全く異なる内容に変わり急に終わったりする。そのあっけらかんとした非合理性、その豊かな即興性に拍手を送りたいと思います。子どもの行動、遊びの原理は、善一悪、正しいか間違っているかではなく、面白く、楽しい、快感であることが全てです。

そういえば近年「モーツァルト遊びの空間」(中堂 高志 著)という様々な遊びが大好きで、人生を楽しんだ(であろう)痛快な優れたモーツァルト論が出版されました。最もヨーロッパらしい世紀と言われる18世紀、典雅なワトーの描く雅な花咲くロココ時代を、僅か36年の短い生涯を通して、軽やかな生の歓びとその宴の終焉を縁取る高度な精神の遊戯とも云える楽曲をモーツァルトは残して走り去りました。

私達は教育や文化の内に「子どもの遊び」のような、生きる歓びの息づく世界を決して失ってはならないと思います。



編集後記

寒くても子どもたちは外遊びが大好きです！鬼ごっこやサッカーで元気いっぱい遊び、白い息を弾ませて楽しむ笑顔はいつも輝いています。冬の便りとともに「年の瀬」「師走」「年賀状」など年末のキーワードがいろいろなどころから聞かれるようになりました。お餅つきを済ませたという園もあるようです。

まもなく子どもたちにとって実りの多かった2学期も終了です。冬休みをご家族と一緒に過ごし、クリスマスなどの年末の行事やお正月を満喫することは、子どもたちにとって3学期へのエネルギーを蓄える良い時間となることでしょう。今年一年を感謝し、新たに迎える2018年も子どもたちの更なる成長をご家庭と園で連携して見守っていきたくて心から願っています。

(広報部 武田 敦子)

Congratulation

平成 29 年度神奈川県私立学校教育功労者表彰
受賞おめでとうございます

森 慎互 先生

(学校法人長津田学園 ながつた幼稚園 理事長)



※神奈川県私立学校
教育功労者表彰

私立学校教育の振興を図るため、私立学校の教職員、校長、園長、理事長及び設置者等を対象として、他の模範となる特に顕著な功績をあげた教育功労者を表彰することを目的とする。